

元ちひろ美術館副館長 竹迫祐子さん

ちひろと絵本から見る 平和と子どもの幸せについて

いわさきちひろ
が作品に込めた
願いとは

絵本を
通して学ぶ

平和とは

子どもの
幸せとは

私たちに
できること



竹迫祐子(たけさこゆうこ)さん

広島市西区生まれ。舟入高校を経て日本福祉大学を卒業。保育園勤務の後、1984年から、いわさきちひろ絵本美術館(現ちひろ美術館・東京)勤務。安曇野ちひろ美術館(長野県松川村)副館長、公益財団法人いわさきちひろ記念事業団事務局長などを歴任。「岡本帰一とちひろ展」「一九八〇年代の日本の絵本」などの展覧会を担当。

著書に『初山滋』『ちひろライブラリー』など。

【お申し込みはこちらから】

【主催・問い合わせ】

特定非営利活動法人
ひろしまチャイルドライン
子どもステーション
〒730-0013
広島県広島市中区八丁堀 7-11
広島 YMCA 気付.
電話/FAX 082-233-8655
事務局携帯 090-7998-6113



【日時】

2025年1月12日(日)
13時30分~
15時30分
(13時受付開始)

【会場】

福山すこやかセンター
多目的ホール

【参加費】

1,000円
(高校生以下無料)



竹迫祐子（元ちひろ美術館副館長）さんは、「ちひろは ”世界中の 子どもに平和と幸せを”という願いを作品に込めました。多くの絵 本作家も平和を願って戦争について描いています。そうした絵本を子どもたちはどう読んできたのか、心の中に何をはぐくんできたのか、平和学という視点から問い直してみたいのです。」と言われて、昨年春から広島市立大学大学院平和学研究科で学んでおられます。（中国新聞 2024 年 2 月 28 日朝刊掲載記事より）

没後 50 年のいわさきちひろが描いた子ども達が、私たち大人をじっと見つめます。その眼差しは 戦禍のない現代の日本の子ども達の目と同じです。

ここ数年の世界状況から、戦争や難民を描いた絵本や、子ども達が向き合う様々な困難や問題を描いた絵本も多数出版されています。

絵本を通して子ども達の「今」を知る、そして、私達大人ができることは何か？子ども達の未来を考えてみませんか？



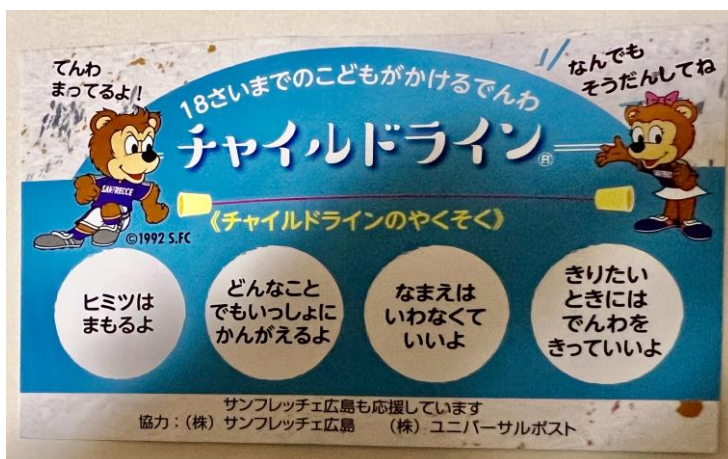
チャイルドラインは、子どもの声に耳を傾け、子どもの気持ちをありのままに受けとめ、共感することによって、子どもの心を解放し自立を支えることを目的としています。

ひろしまチャイルドラインは、市民のボランティア活動として広島市を拠点にスタートし、2025 年 3 月 21 日に 25 周年の節目を迎えます。そして福山市では 2005 年から子どもの声を聴かせてもらっています。

また、スマートフォンの普及と子どもたちのニーズに合わせて、2019 年 11 月から、インターネットを使ったオンラインチャット相談もスタートしました。

子どもたちからは「寂しい」「つらい」、「自分のことを大切に思ってくれる人がいない」と感じていることを訴える声が届きます。

チャイルドラインの活動は目立つものではありません。ですが、その声を社会へと伝え、少しでも多くの大人たちとともに、子どもの育ちを支援する輪を広げること。そして、子どもを社会全体で守り育てることのできる地域社会を目指して活動しています。



ひろしまチャイルドラインは広島県内全域の子どもへカードを配布しています。

そのうち福山分室からは福山市、府中市、尾道市、三原市、神石高原町、世羅町の小学校、中学校の全児童生徒にカードを配布しています。